

俳句愛好者が

一堂に集って開催

第一回南国市俳句大会

市内の俳句愛好者の親睦を図ろうと、二月十九日に大篠公民館で第一回南国市俳句大会が開



60人が参加して開かれた俳句大会

かれました。

これは中央公民館の主催で行われ、大会に先立って俳句を募集し、その投稿者が大会に参加して句を互選するというもの。今回は八十九人から三百七十句が寄せられ、当日は約六十人が参加。

大会ではまず参加者による互選が行われましたが、力作ぞろいとあって選ぶのに一苦労している様子でした。その後、高知新聞俳句選者のたむらちせい氏が「花と昭和史」と題して講演を行いました。

入賞作品は次のとおりです。
(○印は特別選者特選句)

◆南国市長賞

ダム湖測れ兵士送った道がある 山中楽居 (岡豊町滝本)

◆南国市議会議長賞

大寒の沼の本性見てしまおう 岡田寿子 (里改田)

◆南国市教育長賞

風花を受けとめている石の黙 山崎勝子 (大埔)

いちにちの重みに傾しく漬菜 石 溝淵由紀男 (土佐山田町)

○身じろぎをしてもたもとの凍蝶に 高橋蛙 (国分)

◆県俳句連盟会長賞

鶴はきつと涙を溜めて翔んで 森武司 (大埔)

いる 夜神楽や農継ぐ長子神となる 横田明義 (大埔)

◆その他の特別選者特選句

切つなさをマイクにのせて赤のれん 前浜 大原正明
少女等は自分のことを僕といひ 立田 北村幸江
口吟む声も長閑に春景色 里改田 田所千枝

南国歌壇

政治家は金がかかると言いながら 億万長者の大臣すらり 篠原 山本茂

春雨の訪うたびに庭のきぎ 色鮮やかに緑滴る 植野 今原文子

杳き日に亡姑の植えたる山茶花の 黄のしべけぶり寡黙なる冬 岡豊町 武樋信子

山も狭に限りなく降る早春の雪 七子峠よりいよいよ白し 大埔 中田憲秀

夜おそく帰って来たる医学生が 追儺の豆を声高く撒く 岡豊町 葛目治子

露の登ひらく息つき今日もまた 手にも触れ見る職退きし身は 立田 北村賀寿恵

南国柳壇

幼な子のきめ細やかに牡丹の芽 幟幕に船出の雪のはためけり 埋める遺構冬陽一途にすがりいる 初風や前に珊瑚の育つ海 立春のそこ冷え阿波の山の駅 暖冬やそのまま春へ続くかも 昭和史や枯木が右往左往する 鳴の賛思い出せないこと一つ 立春やバキュームカーによく会う日

岡崎美枝 (忍冬句会)

公文政子 (〃)

小松ふみ (〃)

岩城鹿水 (稀の夷会)

大崎雅子 (〃)

川島青可 (〃)

吉田常光 (岩村句会)

大島新草 (〃)

山岡みよ (〃)

南国俳壇

母に歩を合わせ梅林くぐりけり 北岡高子 (堀ノ内)

◆入選二十五句

○特別選者

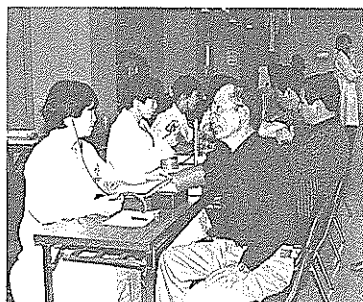
中村祭生、森武司、公文政子、池須章、岡崎筒林、松木巨郎

年一回は検診を——と、昭和六十三年度に検診を受けていない人を対象に、二月十二日、市役所で成人病検診を実施。八百四十人が受診しました。

受診者のなかには今回初めて検診を受ける人も多く、成人病予防は早期発見、早期治療からと各コーナーを回って健康チェックをしていました。

年1回は健康チェック

日曜検診に840人



血圧はだいじょうぶかな